



Nutanix AHV 移行で考慮すべきバックアップの勘所

バックアップ運用を
スムーズに切り替えるための考慮点とは？

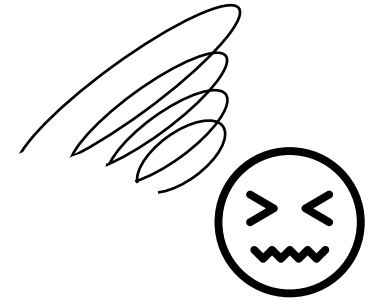
2024年 05月15日
Arcserve Japan プリンシパル コンサルタント
福田 康幸

Rev 1.0

Nutanix AHV 移行時のバックアップの懸念



- 移行前後で、**同じバックアップ製品** は使えるの？
- バックアップ用 **ライセンス追加** は必要？
- バックアップ **設定は流用** できる？
- **物理サーバ** からでも、**仮想移行** できる？
- **ランサムウェア対策** はどうしたら…。



その懸念、**全て Arcserve UDP Appliance** で解決できます



arcserve®



1. Arcserve UDP Appliance のご紹介
2. Nutanix AHV 移行に Arcserve UDP Appliance をお勧めする 3つの理由
3. ランサムウェア対策も Arcserve にお任せ！



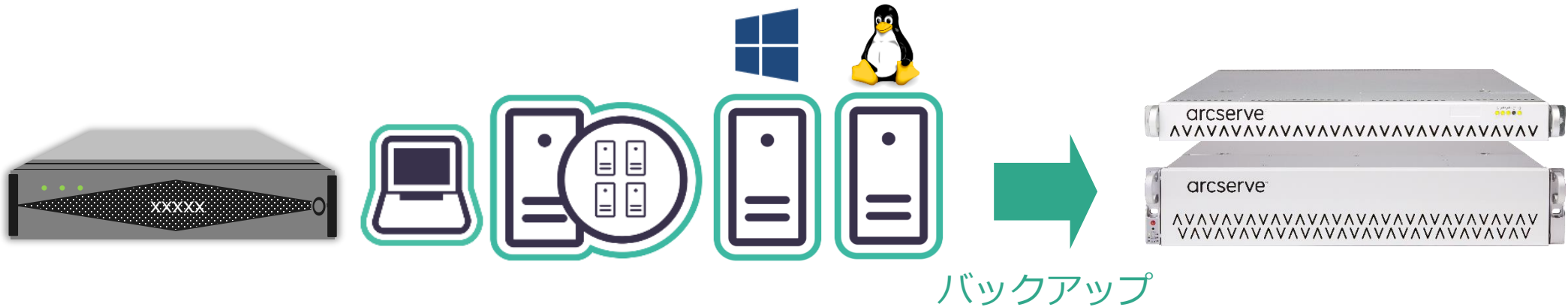
1. Arcserve UDP Applianceの ご紹介

Arcserve UDP Appliance とは？



バックアップ専用 アプライアンスサーバ

Arcserve UDP をプリインストールしたバックアップ専用 アプライアンス
内蔵ディスクにバックアップできる限りライセンスが使い放題
中規模・大規模環境のバックアップをより簡単にシンプルに実現

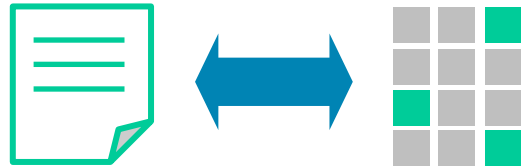


Arcserve UDP の代表的な機能



ブロックレベルでバックアップ

ディスク上の変更ブロックのみを保護対象とするため、データ量削減効果による**時間短縮**が見込め、重複排除の併用でデータ量をさらに削減



継続的な増分バックアップ

必須なのは初回の“フル”だけ。2回目以降は“フル”、“増分”に関係なく指定世代数を自動的に維持するので**手間いらず**



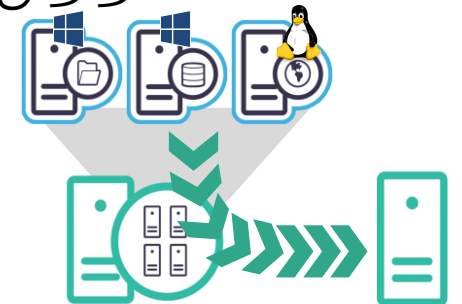
ベアメタル 復旧

システム全体を復旧
異なる機種や**P2V**も**標準**サポート



エージェントレス バックアップ

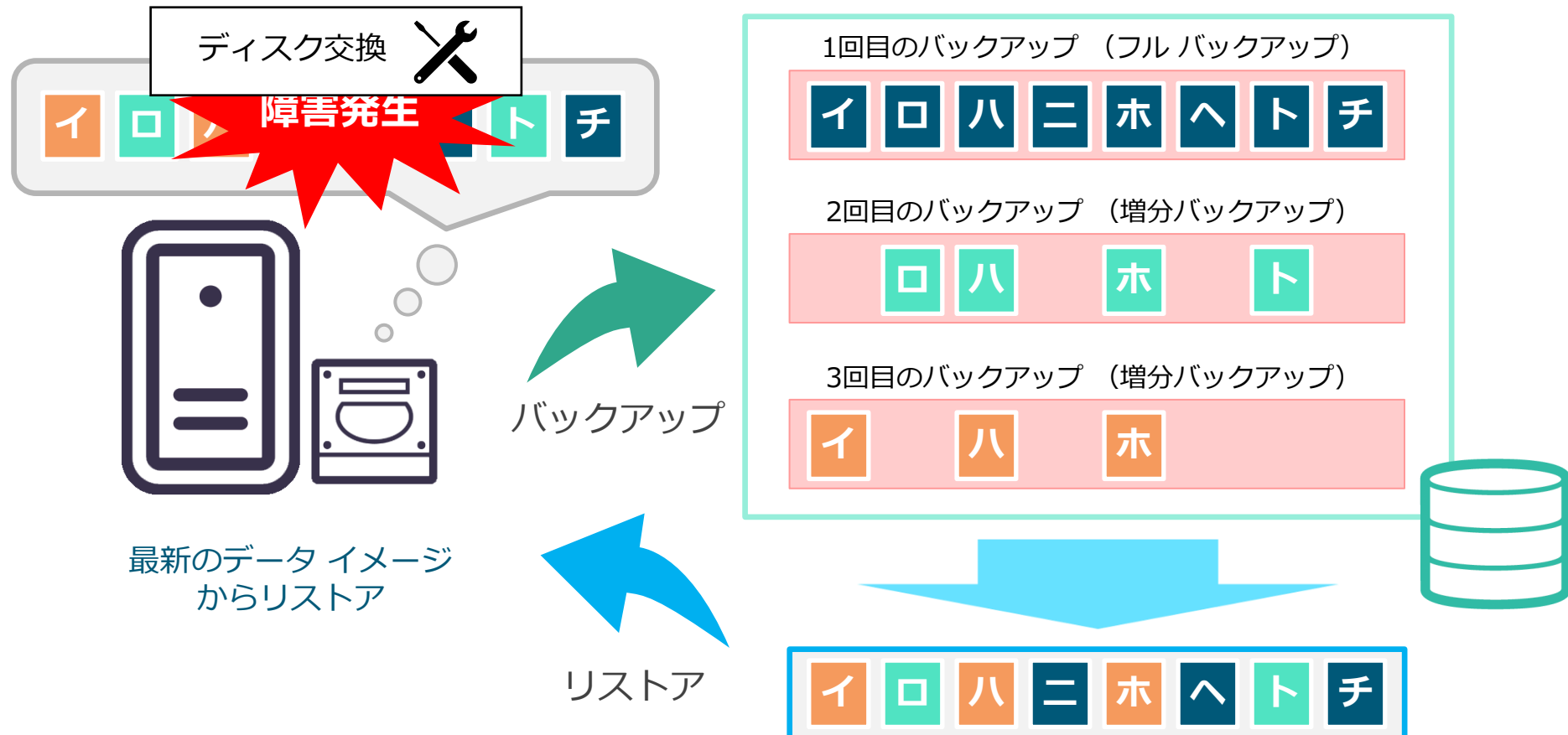
業務サーバへの影響を最小化しつつ
物理サーバ保護と同等の
バックアップ要件を全て網羅



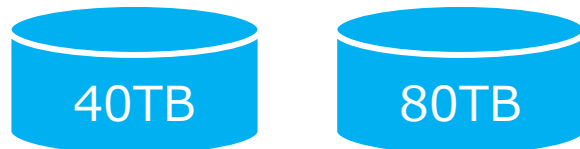
Arcserve UDP が増分運用でも復旧が簡単な理由



- 事前の変更検知により、増分バックアップの時間を短縮
- 指定世代の復旧に必要なブロックを自動的に合成し、1回の操作でシステム全体を復旧



Arcserve UDP Appliance の特長



ライセンスフリー
Arcserve UDP の**ライセンス**が**使い放題**

物理/仮想/Windows/Linux/サーバ/PC
複雑な保護環境を**一元的に管理**

ディスク容量でモデルを選択するだけ
最適にサイジングされたバックアップサーバ

5年間のメンテナンス付き
ハードウェアの**部品交換はオンサイト**対応



2. Nutanix AHV 移行に Arcserve UDP Appliance を お勧めする 3つの理由

理由① 同じ画面操作で移行後も運用できる



Nutanix AHV 移行の前後で、複数の製品を覚える必要はありません

仮想マシン
(エージェントレス)



物理サーバ (Windows)



物理サーバ (Linux)



クライアントPC



The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection web interface. At the top, it says "arcserve UNIFIED DATA PROTECTION" and "administrator". Below that, there are navigation tabs: "ダッシュボード", "リソース", "ジョブ", "レポート", "ログ", "設定", and "ハイアベイラビリティ". The main content area is titled "ノード: すべてのノード" and shows a table of nodes and backup jobs. The table has columns for "ノード", "アクション", "ノードの追加", "フィルタ", "ノードの追加", "VM名", "プラン", "ハイバ-ロイヤ", "前回のバックアップ結果", "前回のバックアップ", and "ステータス". The table lists several nodes and their backup jobs, with columns for "VM名", "プラン", "ハイバ-ロイヤ", "前回のバックアップ結果", "前回のバックアップ", and "ステータス". The table shows that all backup jobs are completed successfully.

ノード	アクション	ノードの追加	フィルタ	ノードの追加	VM名	プラン	ハイバ-ロイヤ	前回のバックアップ結果	前回のバックアップ	ステータス
すべてのノード										
すべてのノード										
ブランチのノード										
vCenter/ESX グループ										
Exchange Online ノード										



WEB GUIなので **同じ画面** (IE / Chrome / Firefox / Edge) と、**同じ設定**でバックアップ運用が可能です



理由② Nutanix AHV 移行前後でライセンス追加が不要



搭載ディスク容量の範囲で、ライセンスが使い放題のArcserve UDP Applianceなら
仮想移行前も、移行期間も、移行後も、**無駄なく**そのまま使えます！

移行前

移行期間

移行後

ソフトウェア
ライセンスの場合※

サーバ台数



× 30台



× 40VM
(8CPU)



× 20台



× 50VM
(16CPU)



× 70 VM
(8CPU)



× 30台



× 70 VM
(16CPU)

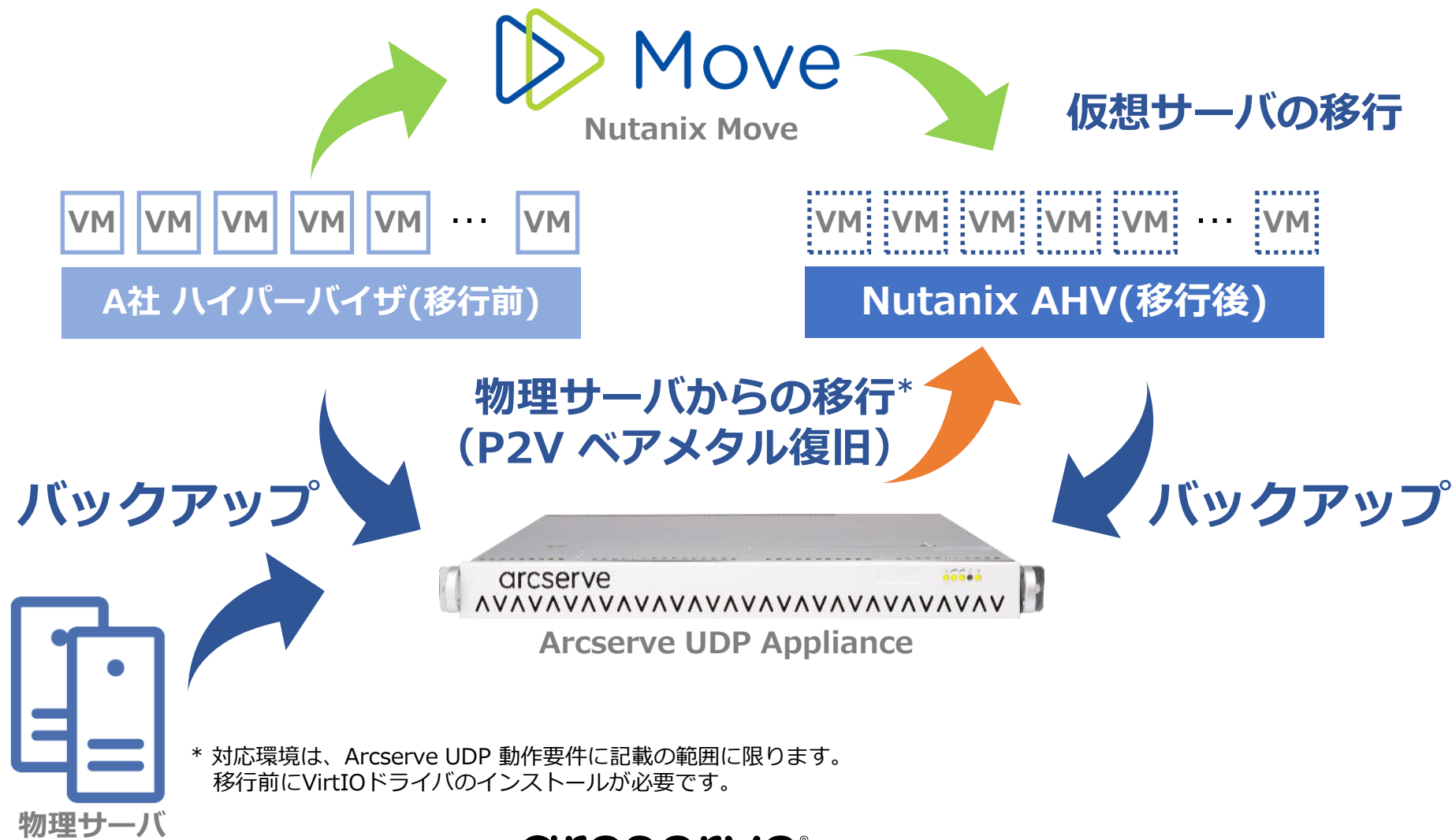
ライセンス



移行期間中のすべての
バックアップ対象に
物理/仮想 (ソケット)
ライセンスが必要

※ 他のハイパーバイザーから Nutanix AHV 環境に移行する場合は、Arcserve ライセンスデスクにてソケットライセンスの変更申請も必要です

理由③ 物理サーバからの Nutanix AHV 移行にも対応



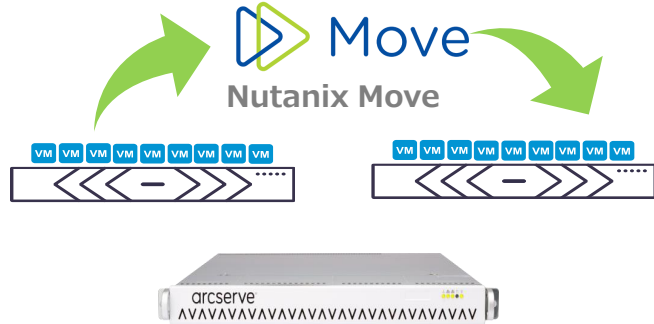
* 対応環境は、Arcserve UDP 動作要件に記載の範囲に限ります。
移行前にVirtIOドライバのインストールが必要です。

(参考) HCI と Arcserve UDP Appliance の組み合わせなら構成もシンプル



変わらない操作性

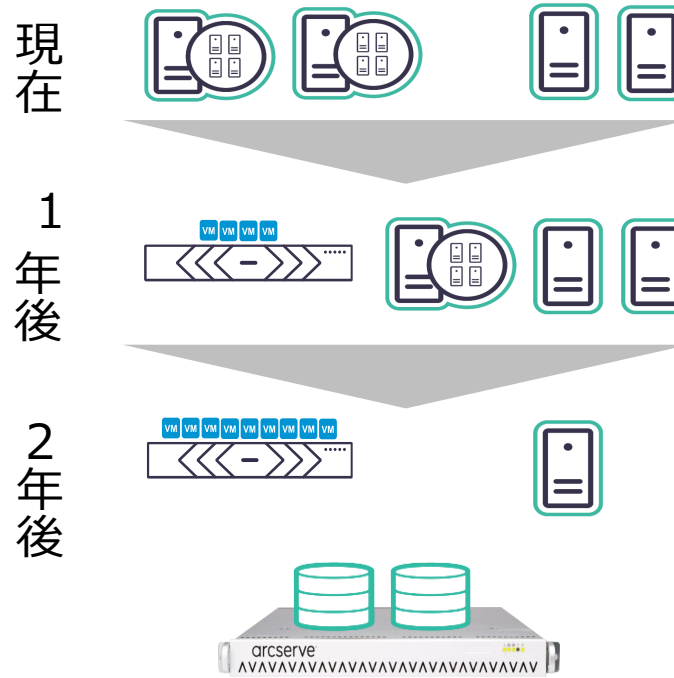
HCI上の仮想基盤変更後も
バックアップ設定の
流用が可能



Arcserve UDP は3つの
ハイパーバイザに対応
(VMware vSphere,
MS Hyper-V, Nutanix AHV)

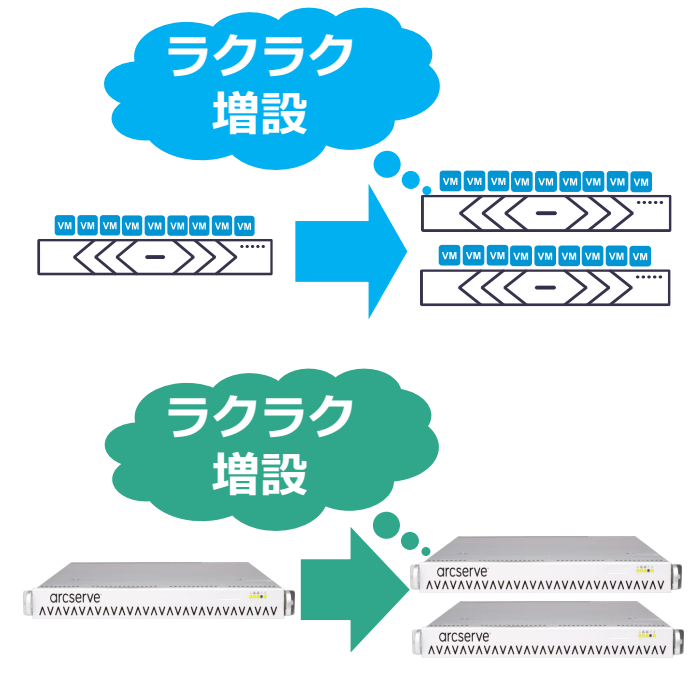
構成変更柔軟対応

HCI 導入による構成変更時も
ライセンスの追加購入不要



システムの拡張性

HCI のスケールアウトに合わせ
データ保護も拡張





3. ランサムウェア対策も Arcserve OneXafe にお任せ！

巧妙化するランサムウェアを使った攻撃



ばらまき型

- 攻撃対象：無差別
- 攻撃方法：添付ファイル付きメールを送付
- 暗号化：添付プログラム実行による暗号化
- 対象データ：**業務データ**

侵入型

- 攻撃対象：ターゲットを特定
- 攻撃方法：脆弱性を突いたネットワーク侵入
- 暗号化：手動で対象データを暗号化
- 対象データ：**業務データ&バックアップデータ**

バックアップデータに対するランサムウェア対策が重要！！

Immutable (不変) ストレージ OneXafe とは？



Immutable : 不変の、変わらない

OneXafe は SMB/NFS 共有を提供するバックアップ専用 NAS (※) です。バックグラウンドで定期的に“不変な”スナップショットを取得します。

ランサムウェアや不正アクセスによりデータに改ざんや削除があっても、スナップショットを使って正常時の状態に復旧できます。

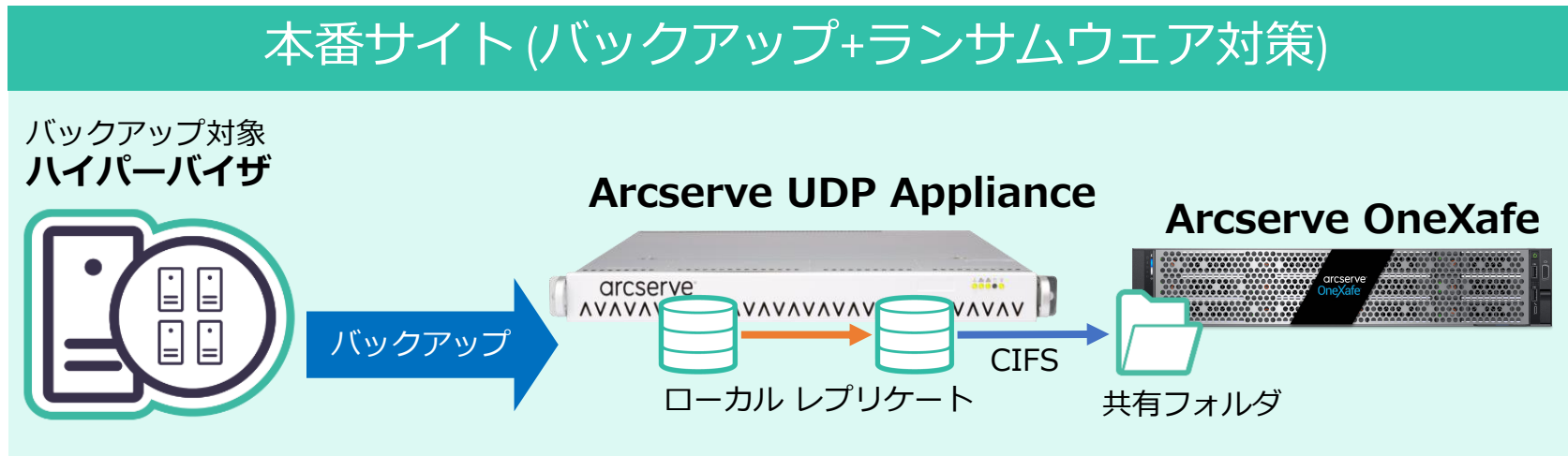


※ Arcserve UDP、Arcserve UDP Appliance または Arcserve Backup のバックアップデータの保存先として利用する事をサポートします。

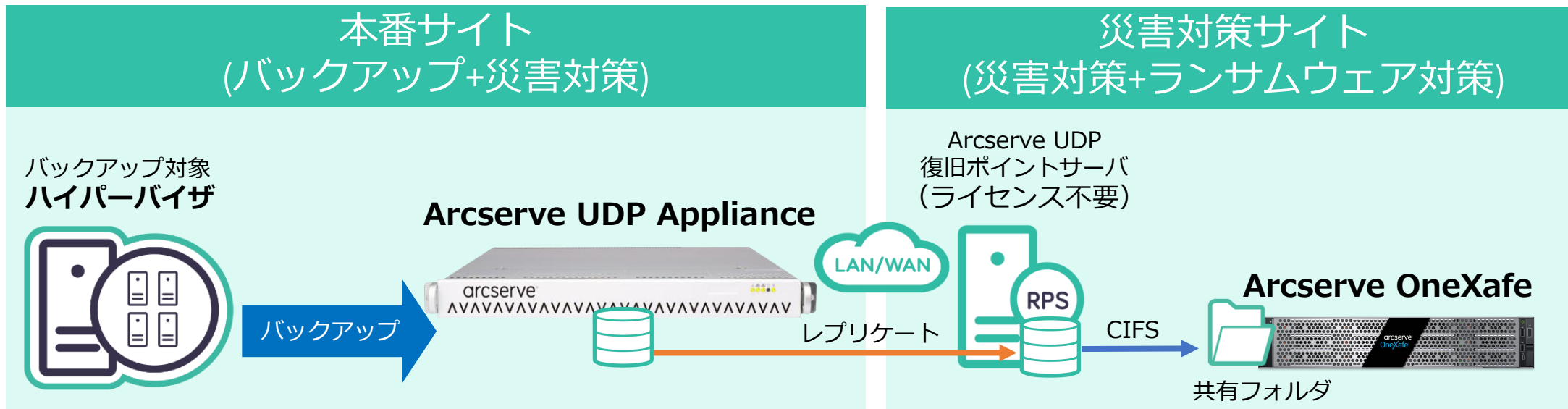
Arcserve OneXafe を使ったバックアップの構成例



構成例①
オンプレ強化



構成例②
災害対策との両立



導入事例：那覇市様（官公庁）



課題

市民サービスを継続するためにランサムウェア対策の強化が必要だった。実際に那覇市立図書館ではバックアップデータまで暗号化される被害が出ており、復旧に3ヶ月を要した。

経緯/導入

Arcserve UDP でバックアップしたデータをさらに、Arcserve OneXafe にローカル レプリケート。バックアップの完全自動運用を実現。

効果

万が一攻撃されたとしても、市民サービスに影響を及ぼすことなく業務を継続できる安心感。

システム構成図などの詳細はこちら↓

<https://www.arcserve.com/sites/default/files/2023-12/case-onexafe-naha-city.pdf>

arcserve®

arcserve® Arcserve OneXafe 導入事例 |

ランサムウェアから市民サービスを守る
Arcserve UDP & Arcserve OneXafe で
統合バックアップ基盤を構築

万が一の場合もイミュータブルなバックアップ保存による迅速なデータ復旧体制を実現

ユーザープロフィール | 業 種:官公庁
組織名:沖縄県那覇市

那覇市
Naha City

課題	経緯	導入	効果
那覇市は身近に迫るランサムウェアの脅威を前にして、市民サービスを継続するために対策を強化する必要があると考えた。ランサムウェア攻撃は巧妙化しており、本書データだけでなくバックアップデータも攻撃対象となることから、確実にバックアップデータを守り、復旧できるように迅速に業務を復旧できる体制の構築を決定。セキュリティシステム群の更改を機に、全庁を覆った統合バックアップ基盤の実装を決定した。	同市はセキュリティシステムの刷新を検討する中、市民サービスの継続性をどう担保するかという課題に直面していた。その課題に対応するため、バックアップデータに対して不要なマップシットを作直し続けることで、ランサムウェアによるバックアップデータの破壊からも復元できる特性を持つ、イミュータブルストレージ Arcserve OneXafe と Arcserve UDPの導入について、セキュリティ事業を委託する事業者から提案を受けた。	同市のランサムウェアに特化したシステムへのニーズに、事業者から提案のあった Arcserve UDP と Arcserve OneXafe の組み合わせが合致していたの導入に至った。1カ月の構築プロセスで体制を整備し、本書を用いて導入した。一次バックアップから Arcserve OneXafe へのローカルレプリケートまで、日常のバックアッププロセスは完全自動運用が実現されている。	構築の課題だったランサムウェア対策に特化した統合バックアップ基盤が実現した。これによって、たとえバックアップデータが改ざん/削除されたとしても、イミュータブルなマップシットにより健全な時点への復元が可能となった。また、Arcserve の手厚いソフトウェアサポートによる基盤の安定稼働が実現し、これにより市民のサービス継続性を担保できる日進が立った。

まとめ



**Nutanix AHV 移行なら
Arcserve UDP Appliance**

お勧め理由①

同じ画面操作で移行後も運用できるので
複数の製品を覚える必要がありません。

お勧め理由②

Nutanix AHV 移行の前後で、バックアップ用
ライセンスの交換申請/追加が不要です。

お勧め理由③

物理サーバからのNutanix AHV 移行にも対応
します。

**移行後の
ランサムウェア対策には**

Arcserve UDP ApplianceとOneXafeの併用で
災害とランサムウェアのどちらにも
備えることができます

arcserve®

もっと詳しく知りたい方は……



Arcserve ポータルサイト：カタログセンター（カタログ、製品紹介プレゼン、技術資料など）

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/>

Arcserve カタログセンター

検索



Arcserve サポート ポータル：ユーザガイド、動作要件、注意制限事項、技術情報など

<https://support.arcserve.com/>

Arcserve サポートポータル

検索



Arcserve ジャパン ダイレクト（ご購入前のお問い合わせ窓口）

例：「必要なライセンスは？」、「XXXをサポートしますか？」 等等



フリーダイヤル： **0120-410-116**

（平日 9：00～17：30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます）



Webフォーム： <https://www.arcserve.com/jp/about/contact/call-me/>



メール アドレス： JapanDirect@arcserve.com

arcserve[®]